

爽やかな新緑の季節を迎えました。グラウンドの周りには、ヒメオドリコソウやオオイヌノフグリの小さなかわいらしい花、そして西洋タンポポの黄色が目立つようになり、いよいよ山形にも本格的な春の訪れを感じる頃となりました。

本日、同窓会長 鈴木博幸様、PTA 会長 佐藤秀紀様はじめ日頃より本校を支えてくださっている地域の皆様、歴代の校長先生方にご臨席賜り、第51回創立記念式を迎えられましたことに感謝申し上げます。

さて、本校は今年度めでたく50周年を迎えます。孔子の言葉「論語」の中に「50にして天命を知る」とあります。天命とは「使命や役割、運命」を指しますが、全校生の皆さん、山形九中にとっての天命とは何でしょうか。それを少し考える日にできればと思います。そして、自分の学校の事や学校の歴史、ここで育った先輩方の事、いずれ入学してくる後輩たちのこと、自分とこの学校との関わりなど、学校に関しての様々な事柄に触れ決意を新たにする日にしていきたいと思います。

本校は、南山形中学校と本沢中学校が統合されて、昭和50年1975年に開校しました。当時の生徒数は420名でした。その11年前の昭和39年1964年に統合するための委員会が発足し、学校名はどうするのか、制服は？校歌は？さまざまな話し合いがもたれたようです。当初は蔵王一中の一部も統合の対象になっていたようです。南山形中は文武両道を謳っている学校でさまざまな部が県大会に出場していたようです。1947年に南村山郡金井村立金井中学校として開校し、1954年に山形市立南山形中学校となりました。画面には58年前の運動会の様子と校舎が映っています。本沢中は図書館教育に力を入れ、読書が盛んな学校でした。1947年南村山郡本沢村立本沢中学校として開校し、1956年に山形市立本沢中学校と名前が変わりました。木造の校舎が見えますね。

新生九中の校舎建設が始まったのは昭和48年、1973年、工事費用はおよそ2億1千万円という記録が残っています。完成したのは昭和50年1985年。この当時、「泳げたいやきくん」という歌が大ヒットしました。校舎が完成したあと、机は用意されたものの、椅子については新しくならず、南山形中と本沢中の生徒がみんなで自分の椅子を運んだそうです。その距離およそ3km、今では考えられないですね。中心になって動いたのは、それぞれの学校の3年生つまり新しい九中には入ることのない人たちでした。自分たちの後輩が困らないように自ら動く、まさに「ボランティアの九中」の先駆けでないでしょうか。

このような思いはみなさんに引き継がれていますね。第1回目の入学式は、みなさんが給食の準備のために並ぶあのスペース生徒ホールで行われたそうです。また、校舎と机以外にはほとんど何もなかったため、学校の様々なものをそろえるため、地区の皆さまからの寄付を集め使わせていただいたそうです。例えば、校門や国旗掲揚台は寄付によって作られました。まさに地区の皆様を支えられたできた学校といえるでしょう。

創立から10年経った頃の校長先生が、九中生のよさについて、このように語った文章がありました。「九中の伝統、特徴、地域の特性は何か、先生方やPTAの皆さんからいろいろな話を聞くうち、次のようなことに気づいた。生徒代表の儀式や集会における挨拶が、中学生とは思えないほど堂々として、内容が整っているということだった。こういう生徒の傾

向は、地域の方々にも共通するところがあった。」以前から挨拶がしっかりしているという文化が根付いている学校であったことが垣間見れます。まさに「あいさつの九中」ではないか、私は、九中のよさが脈々と受け継がれていることに感動すら覚えました。2006年には新しく開校したみはらしの丘小学校からも入学してくるようになりました。すでに、6,000名を超える卒業生を送り出しています。

現在も歌われている校歌は創立当時にできたものですが、作詞した芳賀秀次郎先生は校歌を作るにあたり、次のように述べています。「詩の調子は北原白秋の愛した簡潔で力強い八・八調です。変化に乏しくなるので途中にゆるやかで優しい七・五調を入れました。1番はやさしさ、清らかさ、あたたかさを中心として、2番は強さ、雄々しさ、厳しさを中心としたつもりです」とあります。（☆7クリック）九中生に何を求め、何を期待していたのかが推測されます。校歌は学校の受け継いでいくべき大事な文化の1つです。始業式のときにみなさんに紹介しましたが、私は「きよなる花りんどうの 花の生命のひとすじに」の部分が大好きです。「りんどうの花」の凛とした美しさ、「ひとすじに」という言葉に込められた「いさぎよさ」「まよいのなさ」にひかれます。本校の教育目標である自主自律にも繋がっているような気がします。そして、りんどうの花ことばは「誠実」「正義」だそうです。「悲しんでいるあなたに寄り添う」という意味もあるそうです。「共栄」の原点といえませんか。皆さんも校歌の歌詞の好きな部分を1つ探し、心に刻んでください。「合唱の九中」につながるのではないのでしょうか。

今、私達は家庭、地域の皆様の大きな支援のもと、自主自律、創造、共栄という教育目標を掲げ毎日の学校生活を送っています。☆9この学校教育目標や4つの合い言葉など、みなさんの先輩方がさらにその上の先輩方から受け継いできたものです。

私たちは、学校の「伝統や文化」をしっかりと受け継ぎながら、新たな一歩を踏み出していかなければなりません。山形九中最初の生徒会長 斎藤好浩さんの生徒会誌りんどうに載せた挨拶を紹介します。「九中第1歩の生徒会を活発な協力性のあるものにしよう」という目標をかかげて、私たちはこの一年間をお互いに助け合って活動してきました。後輩諸君、第1歩を踏み出した生徒会を会員みんなの手で作りに上げていってください。いかなる場合でも乗り越えられるような土台を築き、大きく躍進することを願います。」みなさんの日々の取組や活動が九中の新たな歴史の1ページを築いていくのです。九中生全員が一つの方向に向かって、決意新たにみんなで突き進んでいきましょう。さわやかで可憐で凛として野に咲くりんどうの花のように強く、そしてやさしく。

最後になりましたが、本日、お忙しい中多くのご来賓の皆様のご臨席を賜り、誠にありがとうございました。今後も変わらぬ暖かなご支援を賜りますようお願い申し上げ、式辞といたします。

令和7年5月1日

山形市立第九中学校 第20代校長 土井 正路